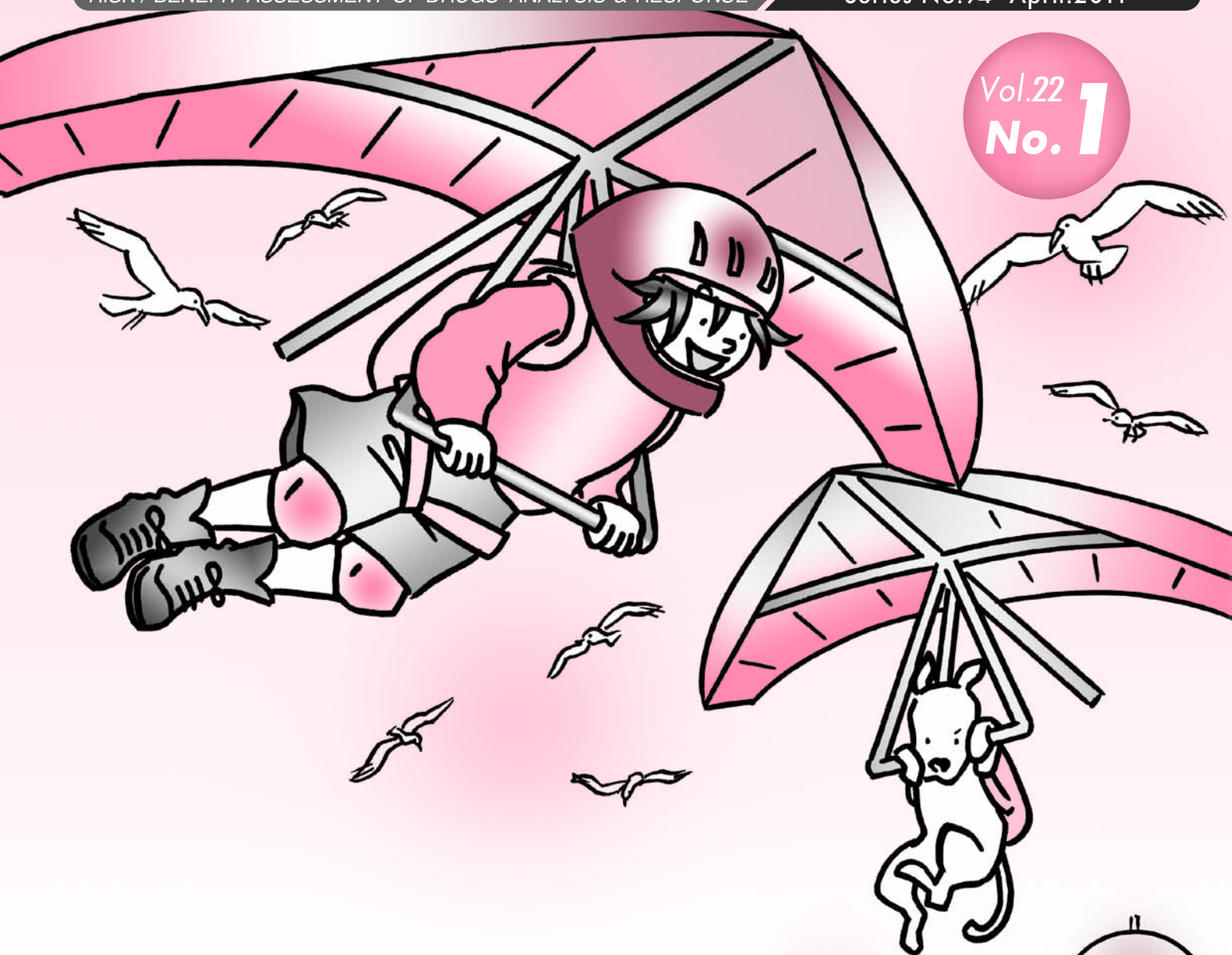


RAD-AR News

RISK / BENEFIT ASSESSMENT OF DRUGS - ANALYSIS & RESPONSE

Series No.94 April.2011

Vol.22
No.1



C o n t e n t s

- 東日本大震災のお見舞いを申し上げます 2
- 第37回通常総会会長挨拶 3
- 平成23年度 事業計画および予算の概要 4
- 部会長運営方針 5
- RAD-AR活動のあり方に関する提言 まとまる 6
- 第2回「くすり川柳コンテスト」入賞作品発表! 7
- イベントカレンダー／編集後記 8



東日本大震災のお見舞いを申し上げます

この度の東日本大震災はマグニチュード 9.0 という未曾有の地震を記録し、甚大な被害をもたらしました。

亡くなられた方々に深い哀悼の意を捧げますとともに、被災された皆様、各地で避難されている全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

改めて協議会は、被災によって医療を奪われた方々を思い、健康医療面での危機管理を含めた医薬品適正使用を研究し、普及に取り組んでいきたいと思ひます。

被災者の方々の生活再建と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

くすりの適正使用協議会

●くすりの適正使用協議会<<RAD-AR活動をささえる会員>>●

アステラス製薬株式会社
アストラゼネカ株式会社
エーザイ株式会社
MSD株式会社
大塚製薬株式会社
キッセイ薬品工業株式会社
協和発酵キリン株式会社
興和株式会社
サノフィ・アベンティス株式会社
塩野義製薬株式会社

第一三共株式会社
大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
日本新薬株式会社
ノバルティス ファーマ株式会社
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社

20社(五十音順)

大野 善三(医学ジャーナリスト)
三輪 亮寿(弁護士)

(敬称略)

第37回通常総会会長挨拶

患者さんの理解力、判断力をUPさせる



くすりの適正使用協議会 会長

いさ お
大橋 勇郎

最近、人類の力というものを考えさせられる事件が目につきます。

まずは天変地異ともいえる自然の猛威です。オーストラリアの大旱魃、ニュージーランド南部の大地震、そして日本では、日本海側での記録的な大雪、霧島連山・新燃岳^{しんもえだけ}の爆発的噴火などです。

これらに対しては、人類は如何ともし難い「無力」を感じているでしょう。

一方で、人類の強かさ^{したたかさ}です。今日はネット社会と言われるほど世界規模で多種・多様の情報を飛び交わしています。瞬時にして情報が行きなり、それを共有できてしまいます。ネット人口が約20億人ということですから宜なるかなです。人類は「有力」^{むべ}を感じているでしょう。ただこれには大きな課題があると思うのです。

ウェブの著しい進化には、従来の社会の根幹をも大きく揺るがすからです。チュニジアに端を発した北アフリカ・中東諸国での歴史的出来事、内部告発サイトによる外交公電の暴露、また今春のことですが、大学入試での試験問題のインターネットへの投稿はそれを裏付けます。

然しながら、インターネットは手段であり、情報の遣り取りを容易にしているにすぎないのです。課題は、情報を扱う人にあると思うのです。情報を「遣る」つまり、提供する側にはモラルが、情報を「取る」つまり受理する側には理解力、判断力がという課題があります。

本来は、提供する側は受理する側のことを考慮に入れて情報提供することが求められるのではないのでしょうか。

振り返って、くすりの適正使用協議会は情報、といっても医薬品適正使用に限定されますが、を患者さん、一般人という受理する側のことを考えて提供してまいりました。

ただ、これからは受理する側の理解力、判断力をupさせることが、医薬品適正使用の確保にとって重要と思いますので、そこに力を今まで以上に注ぎたいと考えます。

ところで、医療は絶えず進化を続けています。患者さんもそれにつれて考え方、行動を変えています。協議会はこうした動き、流れに遅れないように活動を進めなければと考えています。

昨秋より、外部の有識者を交えてこれからの時代を見据えた今後の活動方針を検討してきました。後程、概要が説明されますが、国民が医薬品リテラシーを育成し医療の場で活用できるようにすること、リテラシーと表裏一体の関係にある情報を集中し発信すること、加えてこうした活動を支える組織を再検討すること等が提言という形で示されました。斬新な提言を実行に移すことで、医薬品の価値そしてそれを製造販売する者の評価が高まるものと確信しています。なお、敢えて触れますが、製薬協を始めとする他団体での取り組みとは重複することは考えていません。

今後とも協議会に格段のご支援とご協力をいただきますようお願いします。

(平成23年3月9日。記)

平成23年度 事業計画および予算の概要

1. 事業展開に当たっての方針

医薬品を理解し適正に用いることが、人の健康、生命の維持にとって大切であることを認識し、確実に行動に移せるよう、一般人（患者さんを含む）には啓発を進めると共に、専門家にはそのサポート役を担ってもらえるよう働きかける。



2. 各事業の目的とハイライト

① 薬剤疫学関連

薬剤疫学の理論と実践について啓発を図る。

- 1) 医薬品を製造販売し供給する立場、及び医薬品を使用している立場からのデータ（薬物治療に関する情報）についてデータベース化を進め、適正使用につながる情報を提供、創製する。
- 2) 海外におけるファーマコビジランス等、医薬品リスクマネジメントの動向を調査、研究する。

② コミュニケーション関連

ドラッグリテラシーの育成・促進を図るとともに、事業の広報を拡充する。

- 1) 若年者には医薬品教育に携わる人を通して、一般人には協議会を通して、リテラシーの啓発を進める。
- 2) リテラシーに資する情報、例えばくすりのしおり®を充実する。
- 3) メディアとの意見交換会を開催する。

③ 共通事業

医薬品の適正使用啓発（RAD-AR）活動のあり方に関する検討会の提言を、平成24年度から実施に移すための具体策を検討する。

● 平成23年度収支予算

（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

<収入の部>

（単位：千円）

科 目	平成23年度予算
会 費	120,000
雑収入 (利子、研修参加費、等)	2,500
合 計	122,500



<支出の部>

（単位：千円）

科 目	平成23年度予算
—— 事業費 ——	55,650
① 薬剤疫学関連	(19,500)
② コミュニケーション関連	(34,650)
③ 共通事業	(1,500)
—— 管理費 ——	66,850
① 定例会議	(5,000)
② 事務局運営	(61,850)
合 計	122,500

平成23年度**薬剤疫学部会運営方針**薬剤疫学部会 部会長 **江島 伸一**

昨年、「医薬品の適正使用啓発(RAD-AR)活動のあり方に関する検討会」は、世の中の「医薬品リテラシー育成」を目標とするよう、くすりの適正使用協議会に提言した。

今年は、その提言を受け、重要性和緊急性を考慮し、取り組むべき3～5年の具体的な行動目標をたて活動を展開する必要がある。よって、本年は継続性と移行の両面を考慮し、従来の活動は最小限にとどめ、提言に沿った活動の計画策定とその準備に注力することになる。

1. データベース

薬剤疫学研究にとって必須である情報を系統的に整理、管理するデータベース化を進めるとともに、その利活用を通じて医薬品適正使用に資する活動につなげる。

2. 啓発および普及**1) セミナーの開催**

薬剤疫学のわが国でのさらなる定着を図るため、製造販売後調査等に相当程度携わっている者を対象にしたインテシブコース、ある程度携わっている者を対象にしたシニアコース、携わって間がない者を対象にしたビギナーコース、並びに専門家の指導の下に薬剤疫学プロトコル作成の実践について学ぶ育薬アカデミーコースを開催する。さらに、ファーマコビジランスの基本理念、欧米の実際を学ぶ機会も設ける。

2) 講師の認定、育成、派遣等

薬剤疫学、ファーマコビジランス等に精通する人を育成し、薬剤疫学の応用、普及を進める。

3) 相談、助言等(薬剤疫学情報:PERC)

薬剤疫学研究の実施、また検討することを考えている研究者に対して相談、助言等を行う。

3. 関連活動の紹介

海外における薬剤疫学関連の諸活動について精査し、その内容を紹介する。

4. 情報交流

国内外の薬剤疫学関連団体との情報交流を行い、事業の充実を図る。1) 海外では、会員企業の社員を主に、アメリカで開催される国際薬剤疫学会議(ICPE)に派遣する。また2) 国内では、日本薬剤疫学会が開催する学術総会等への参加、また日本製薬工業協会のPMS部会との意見交換を行う。

平成23年度**コミュニケーション部会運営方針**コミュニケーション部会 部会長 **河野 有**

昨年9月から始まった「RAD-AR活動のあり方に関する検討会」(あり方検討会)は、本年2月に提言をまとめ、この中で、くすりの適正使用協議会(協議会)が国民の「医薬品リテラシー育成」を目標として活動展開することを強く望みました。

協議会は、このあり方検討会の提言を受けて、平成24年度からは具体的な行動目標を設定して協議会活動を展開していくこととなりますが、コミュニケーション部会では、平成23年度はこれらの変革に向かう“助走”の期間と捉え、提言を盛り込んだ形で、以下の運営方針を掲げ、活動を展開してまいります。

■啓発委員会：医薬品リテラシーの育成と活用

医薬品適正使用の実践に必要なリテラシーを全ての人が学べるように活動する。

1) 医薬品に関する教育(公教育でのくすり教育)へのサポート

- ・保健教育指導者研修会の実施と研修プログラムの開発
- ・保健体育教諭、養護教諭、学校薬剤師を対象とした出前研修を20回実施

2) くすり教育アドバイザー(協議会認定)の育成、派遣**3) くすり教育に関連する教材・資料の整備と開発及び貸し出し****■情報委員会：リテラシーを支える医薬品情報の提供**

医薬品情報を、一般人が理解し活用することが出来るものに作り変え、提供する。

1) くすりのしおり®の拡充**2) コンコーダンス指向くすりのしおりの充実****3) リテラシー向上に資する情報及びその提供方法の検討****■広報委員会：協議会の活動を広く知ってもらうためのPR(広報)を拡充****1) メディアとの情報交換会を3～5回実施する****2) 協議会が取り組んでいる事業の成果を積極的にリリースする****3) RAD-AR Newsの定時発行(4回)とメールマガジンの発信(随時)**

リーダー RAD-AR活動のあり方に関する提言 まとまる

くすりの適正使用協議会では、約10年ごとに先を見据えたRAD-AR活動のあり方と、それを踏まえた協議会の役割について専門家および有識者からなる「RAD-AR活動のあり方に関する検討会」を組織し、議論を行ってきました。

設立21年目となる平成22年度、RAD-AR活動の根幹をなす「医薬品適正使用の確保」について、今日の医療・医薬品をとりまく情勢を踏まえ、どのようなアプローチがあるのか、また同時に、活動を支える組織、財政、広報活動のあり方について検討しました。

5回にわたる検討の結果、検討会から協議会に対して以下の提言が出されました。

この提言については、平成24年度から具体的な活動として展開していく予定です。

報告書の詳細はこちら⇒<http://www.rad-ar.or.jp/blog/>

検討会メンバー

【座長】	山崎 幹夫	元新潟医科大学学長 千葉大学名誉教授
【委員】	勝村 久司	全国薬害被害者団体連絡協議会 副代表
	吉川 肇子	慶応義塾大学 商学部 准教授 博士(文学)
	小嶋 修一	㈱TBSテレビ 報道局 解説委員
	篠原久仁子	有限会社フローラ 代表取締役
	杉森 裕樹	大東文化大学 スポーツ健康科学部 健康科学科 教授 医学博士
	鈴木 邦彦	社団法人日本医師会 常任理事
	高石 憲	中央大学 法学部 政治学科「メディア対策」兼任講師
	中井 清人	厚生労働省医薬食品局総務課 課長補佐
	西畑 吉晴	日本製薬工業協会 広報部部長
	江島 伸一	くすりの適正使用協議会 薬剤疫学部会長
	小林 英夫	くすりの適正使用協議会 コミュニケーション部会長
	海老原 格	くすりの適正使用協議会 理事長
【事務局】	松田偉太郎	くすりの適正使用協議会 事務局長
	谷村 千秋	くすりの適正使用協議会



提言内容

協議会が過去10年間行ってきた、「医薬品情報収集・発信の中心的役割を担い、社会に正しい情報を提供する活動」は引き続き必要であると考え、そのために、まずは社会全体の「医薬品リテラシー」の育成を最優先し、重要性和緊急性を考慮し、今後取り組むべき3～5年の具体的な行動目標を立てて活動を展開することを強く望む。

*医薬品リテラシー:医薬品の本質を理解し、医薬品を正しく活用する能力

① 医薬品リテラシーと教育

医薬品に関する国民のリテラシーは、いまだ、十分に育ってはいない。

そもそも、医薬品とは何か、新しい医薬品は、どのようにして開発されるのかなど、医薬品の根本に関わることを紐解く場があれば、おのずと医薬品についてもっと知りたいと考えるようになるのではなかろうか。

- 『患者が主人公』くすり教育で実現
- 医薬品リテラシーを支える情報公開
- 公教育でのくすり教育の推進
- 高等教育向けのくすり教育の推進
- くすり教育で国民の意識レベルをアップ!
- くすり伝道師の育成

② 医薬品リテラシーと情報

医薬品に関する情報は、迅速かつ、正確、的確、適切なものでなければならない。本来は、医師や薬剤師から国民に対して、必要かつ十分な情報が提供されるべきだが、多くの国民がそういった情報だけで満足していないのが実態だ。医薬品の分野でも、いかに可視化が進められるか、国民は注目している。協議会は、特定の製薬企業や医療機関などと、大きなしがらみがなく、患者のために、中立・公平に

医薬品情報を収集・整理・提供できる。国・行政をはじめ、医療機関、薬局(薬剤師)、などから、正しい情報が国民へ届けられているかどうか、しっかりと監視するということも、協議会の大きな役割だ。

■国民が必要とする情報とは

- CM・広告ではない、正確で客観的な情報
- 添付文書のわかりやすい情報
- 知りたいときにすぐ入手できる情報
- リスク情報
- 双方向性で、個別化な情報
- 希少疾患の情報
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)に関する情報

■協議会の活動の新機軸

- くすりの伝道師/くすりアゴラなど
- 協議会のHPの拡充
- メディアや、薬剤師・薬局らとの協働

③ 医薬品の安全性に関するリスクコミュニケーション

医薬品のリスクコミュニケーションでは、製薬企業や専門家に任せきりにせず、患者自らが動くことで、単に情報を得るだけでなく、それに基づき、くすりの処方や治療法に関して、重要な意思決定を自ら行うということが可能となる。協議会においても、こうした観点に立った教育や情報提供をさらに推進すべきである。

④ 協議会の位置づけ

■会員減少への対策が急務

■位置づけ確立のために

- RAD-AR活動のキーワードを明示
- 中立的立場をアピール
- 世界を代表するくすりの適正使用協議会に

第2回 「くすり川柳コンテスト」入賞作品発表!

くすりの適正使用協議会は、くすりを正しく使うことの大切さの普及・啓発を推進することを目的とし、

「第2回 くすり川柳コンテスト」を実施しました(募集期間2010年10月5日～12月15日)。

全国の小学生以上の方々を対象として募集したところ、昨年の2,425句を大幅に上回る9,743句が寄せられました。

その後、第1次・第2次選考を経て、入賞作品20句が選定されました。

年齢とともに増えるくすりの種類、外出時のくすりの携行や飲み忘れていないかを確認し合う家族間のコミュニケーション、苦いくすりを子供に飲ませる母親の工夫、闘病の中で命をつなぐくすりへの感謝・希望など、今年も日常生活におけるくすりとの関わりを様々な視点から詠った感性豊かな川柳が寄せられました。特別審査員として、各部門の最優秀賞および優秀賞を選定したコピーライターの仲畑貴志氏は、今年の応募作品の傾向について、次のように述べています。

「自分を振り返ってみても思いあたるように、子供の

ころはくすりは嫌なもの。しかし、子供は必要であることをちゃんとわかっています。子供部門では、くすりとうまく付き合おうと努力している句が多く見られました。一般部門では、ますます進む高齢化という現実から書かれた句が目立っていました。」

多くの皆様からご応募いただいた「くすり川柳」を通して、日常生活における人々のくすりとの接し方や、その時々への思いがどのようなものであるかを参考にしながら、様々な形で、これからもくすりの正しい使い方の普及・啓発を推進してまいります。

入賞作品

《一般部門》

「くすりとは 苦をすり抜けると 母が言う」	大分県 渡辺 浩子さん(48歳)
「いけないよ 効かないからと 多服用」	静岡県 鈴木 涼介さん(19歳)
「クスリ飲み 命あつける あの時まで」	宮城県 伊藤 元雄さん(55歳)
「良きくすり 正しく服めば 良き効果」	大阪府 天野 誠一朗さん(76歳)
「必需品 娘ケータイ 父くすり」	東京都 新保 喜久男さん(54歳)
RAD-AR賞	
「飲み忘れ 誰かが気づく 家族愛」	宮城県 相沢 浩美さん(27歳)
「年々と 薬とシワが 増えていく」	東京都 中田 さゆりさん(40歳)
「祖父と祖母 薬飲んだが 合言葉」	北海道 高松 優花さん(27歳)
佳作賞	
「名刺より 薬見せ合う クラス会」	神奈川県 石川 照夫さん(64歳)
優秀賞	
「薬箱 拡大鏡が 巾きかせ」	茨城県 石田 美佐江さん(53歳)
最優秀賞	

《子供部門》

「一つぶが 大きく見えた あのころは」	東京都 宮坂 夏実さん(15歳)
優秀賞	
「薬ギライ なおすクスリは ないかしら」	新潟県 田中 蘭さん(10歳)
佳作賞	
「よかつたね 薬がきいて 笑顔でる」	兵庫県 植地 真子さん(9歳)
「よくなれと まほうをとなくて くすりのむ」	福島県 天野 夏星さん(8歳)
「水戸黄門 薬かかげて ひかえおろう」	大阪府 ハンターアンドリュースさん(12歳)
RAD-AR賞	
「せきどめを おいしくしてよくすりやさん」	兵庫県 藤田 玄さん(9歳)
「なおすため にくくてものむ 一年生」	広島県 西紫月さん(7歳)
「ひとりでは ちよと心配 聞いてから」	島根県 角森 多久哉さん(12歳)
「おくすりを 正しくかつて 健康に」	山形県 齊藤 三友紀さん(14歳)
「風邪ぐすり 飲めず飲めずで 一時間」	埼玉県 松苗 新奈さん(13歳)

今回の入賞作品はホームページ http://www.rad-ar.or.jp/02/07_event/senryu/ でもご覧いただけます。

*RAD-AR: Risk/Benefit Assessment of Drugs-Analysis and Response

RAD-ARとは、くすりの適正使用協議会の活動を表現したもので、医薬品のリスク(好ましくない作用など)とベネフィット(効能・効果や経済的便益など)を科学的に評価・検証し、その結果を社会に示すことで医薬品の適正使用を推進し、患者さんに貢献する一連の活動のことです。

RAD-AR(リーダー)って、な～に?

RAD-ARは、医薬品のリスク(好ましくない作用など)とベネフィット(効能・効果や経済的便益など)を科学的に評価・検証し、その結果を社会に示すことで医薬品の適正使用を推進し、患者さんに貢献する一連の活動のことです。

イベントカレンダー

◆掲載紙(誌)Web(1月～3月)

- ・「薬の基礎知識など保健の教諭ら学ぶ 熊本市で研修会 くすりの適正使用協議会」【熊本日新聞(2011.1.22)】
- ・「くすり教育授業 教師の8割未経験」【新潟日報(2011.1.26)】
- ・「くすりのしおり」を活用して有用な情報提供を【Credentials 1月号】
- ・コンコーダンス指向「くすりのしおり」あなたの病気とくすりのしおり【Credentials 2月号】
- ・「くすりの適正使用協議会、模型教材の貸し出しを開始」【日本薬剤師会雑誌 2月号】
- ・くすり川柳入賞発表【日経産業新聞(2011.3.2)】
- ・第2回くすり川柳コンテスト～入賞作品が決定～【東京新聞(2011.3.3)】
- ・高脂血症用剤の患者データベース構築【日刊薬業(2011.3.11)】
- ・「適正使用の啓発活動拡充」【薬事日報(2011.3.14)】
- ・高脂血症剤のデータベース構築、メタボ研究に【RIS FAX(2011.3.14)】
- ・医薬品適正使用のリテラシーを育成 通常総会を開催【教育家庭新聞(2011.3.19)】
- ・患者さんへ、信頼のおける薬剤情報を【Credentials 3月号】

◆活動報告(2011年1月～3月)

- | | |
|--|---|
| 2011.1.17 熊谷市学校薬剤師会 くすり教育出前研修(埼玉) | 2011.2.14 葛飾区立中学校教育研究会学校保健部 くすり教育出前研修(東京) |
| 2011.1.21 熊本県高等学校保健会 くすり教育出前研修(熊本) | 2011.2.17 第4回「くすりのしおりクラブ」担当者会議 |
| 2011.1.21 第5回 RAD-AR活動のあり方に関する検討会(東京) | 2011.2.25 全国養護教諭連絡協議会第16回研究協議会 出展(東京) |
| 2011.1.21 製薬協 PMS部会と薬剤疫学部会との情報交換会(東京) | 2011.2.25 第2回くすり川柳審査発表 |
| 2011.1.25 愛知県稲沢市保健部会 くすり教育出前研修(愛知) | 2011.3.9 第37回 通常総会 第27回理事会 |
| 2011.1.27 東京都羽村市保健部会 くすり教育出前研修(東京) | |
| 2011.1.27 新潟県薬剤師会学校薬剤師部会 くすり教育出前研修(新潟) | ◆活動予定(2011年4月～6月) |
| 2011.2.4 第91回海外情報研究会(東京) | 2011.6.3 第92回海外情報研究会(東京) |
| 2011.2.8 千葉県教育保健部会 くすり教育出前研修(千葉) | |
| 2011.2.10 神奈川県薬事監視員研修 安全性監視と薬剤疫学について講師派遣(横浜) | |

*薬剤疫学部会で開催している各セミナーは7月から始まります。次号RAD-AR News イベントカレンダーをご確認ください。

当協議会の詳しい活動状況(RAD-AR TOPICS)と、RAD-AR Newsのバックナンバーは、当協議会ホームページよりご覧頂けます。

<http://www.rad-ar.or.jp>

編 集 後 記

最近、日本人サッカー選手の海外での活躍が華々しい。連日のように、活気溢れるニュースがヨーロッパから発信されている。今や、日本代表クラスの選手だけでも20人以上がヨーロッパ各国でプレーしているという。現地リーグで活躍する画面をテレビで見るとつい刺激を受け、自分も何か新しくチャレンジしたいと高揚する。

良い刺激というと、最近、薬学生とコミュニケーションを取る機会があり、ここでもいい刺激を受けた。ある日本の薬学生の集会では、欧州・米州・アジア各国の薬学生を日本に呼び、国際交流を通じて世界の医療・医薬品情勢を学ぶ、という活動が行われているそうだ。グローバル化が当たり前だと社会や各企業が切磋琢磨している一方で、薬学生の中で

もグローバル化が進んでいた。ゆくゆくは、研究や臨床、製薬企業での仕事に携わりたい、とごく普通の学生であるものの、すでに世界市民としての意識が高いのである。彼らは、母国と友人の国の医療情勢の違いや、世界各国の医薬品市場の違いに興味を示していた。国境の壁を越えて、自分と同じような世界中の学生がよきライバルなのであろう。中でも、海外の学生の積極的な姿勢に、日本の学生が負けじと刺激を受けている様子が印象的だった。

言葉がつかなくても、がむしゃらに突き進む、若いサッカー選手や学生たちに、なんともいえない熱いエネルギーを感じた。

(M.K.)

RAD-AR活動をささえる会員

●企業会員 20社 (五十音順)

アステラス製薬株式会社 アストラゼネカ株式会社 エーザイ株式会社
MSD株式会社 大塚製薬株式会社 キッセイ薬品工業株式会社
協和発酵キリン株式会社 興和株式会社 サノフィ・アベンティス株式会社
塩野義製薬株式会社 第一三共株式会社 大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社 武田薬品工業株式会社 田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社 日本新薬株式会社 ノバルティス ファーマ株式会社
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 Meiji Seika ファルマ株式会社

●個人会員 2名 (五十音順・敬称略) 大野 善三 三輪 亮寿

RAD-AR News Vol.22 No.1 (Series No.94)

発行日：平成23年4月

発行：くすりの適正使用協議会

〒103-0012

東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル8階

Tel.03-3663-8891 Fax.03-3663-8895

<http://www.rad-ar.or.jp>

E-mail:info@rad-ar.or.jp

制作：日本印刷(株)